やうに思はれてゐたが、一九二三年中、初て六週間同地に滯在した結果、余は却つて此の識別事業に猶ほ餘す所があり、而もその完結には今後多大の努力と時日とを要すべきものと確信するに至つた。此の事業が格別困難である と云ふ理由は直に見出される。卽ち、今猶ほ存在する遺跡が非常に多く、而もそれが非常に重要なものであることである。北方カフィリスターン Kafiristân の高い山々が河の對岸に降り着く麓と云ひ、西方カーブール高地を隱す「黑き山々」(Siyah-Koh) に沿ふ處と云ひ、又南方「白き山々」(Safed-Koh) の長く續いた斜面が絕壁の形をなして平地に接する斷崖の緣と云ひ、到る處に數多の塔、僧坊、多少損廢した洞窟などがあつて、其の昔佛敎に對する信仰の結果、此の舊都の周圍が如何に壯麗であつたかと云ふことを證明して居る。此の都の廓內には珍しく著名な建物などもあつたものであるが、それ等の跡は今では、青々した耕地の上に凸起し一種灰色の小島のやうな形をして平地の底部を高めてゐる多くの石山の一つで隱されてゐる。是等の建造物は其の規模が中々廣大で、殆ど皆指摘記錄さるべき價値があつた筈であるが、法師を始め